

乗雲

寺報
第82号

H23.9.10 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広蔵寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

生きることとは

生きることとは 愛することだ
妻子を愛し はらからを愛し
おのれの敵である者をも
愛することだ

生きることとは
生きとし生けるものを
いつくしむことだ

野の鳥にも草木にも
愛の眼を そそぐことだ

生きることとは
人間の美しさを 失わぬことだ
どんなに苦しい目にあっても
あたたかい愛の涙の
持主であることだ

ああ
生きることとは
愛のまことを
貫くことだ

坂村真民

三月十一日未曾有の巨大地震が

起こりました。東京にある曹洞宗
宗務庁での所長会議の帰り、新幹
線高崎駅手前で遭遇しました。列
車が脱線するかのようなものの凄
揺れでした。それがしばらく続き
ました。テレビ中継された巨大津
波、町や村をのみこんでいく映像
は想像を絶するものであり、自然
の猛威の前で如何に人間は無力で
あるかを思い知らされました。

沢山の方が犠牲となり、未だ多
くの方々が避難生活を続けていま
す。寺院も倒壊、住職が亡くなり、
その被害状況は甚大です。そして、
その影響による福島第一原子力発
電所の事故は、半年が経ちまし
たが未だ収束状態にはありませ
ん。周辺地域の多くの人が遠くふ
るさとを離れ、苦難を強いられて
暮らしています。原発事故が生ん
だ「風評という新しい人権問題」
も起きています。

詩人の坂村真民さんは、「一人で

もいい、わたしの詩を読んで生き
る力を得て下さったら 涙をふ
いて立ち上がって下さったら
きのうまでの闇を光にして下さ
つたら」と願ってこの詩を書いた
そうです。何度も読み返している
と涙が出そうになります。

もうすぐお彼岸がまいります。
夏の暑さが終わり秋の涼しさの
中でお彼岸を迎えます。「彼岸」
とは、「向こう岸」ですが、死ん
で行く所でも、どこかへ行くこと
でもありません。生きとし生ける
ものみんなが「しあわせ」になる
ことです。

幸せはどこからくるか
それは自分の心からくる

だからたとえ不幸におちても
心さえ転換すれば
灯台の灯りのように

自分ばかりでなく
周囲をも明るくしてくれる

そのことを知ろう

これも真民さんの詩です。大災
害により社会全体が変わってき
ています。お釈迦様の智慧と慈悲
でもって苦難を乗り越え、一刻も
早く、心安らかに暮らせる「しあ
わせ」な日々が訪れることを心か
ら願っています。

平成二十三年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十二年
二回忌	平成二十一年
七回忌	平成十七年
十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成七年
二十二回忌	平成元年
二十七回忌	昭和六十年
三十三回忌	昭和五十四年
五十回忌	昭和三十七年
百回忌	明治四十五年

* 今年の年回忌のご案内は、
昨年十二月に正当の各家に
通知いたしております。
* 日曜・祝日のご法事の申
し込みはお早めにお願
いいたします。

「周」は「めぐる」ことを意味
する言葉で、亡くなってからちよ
うど一めぐりした翌年のその日を
一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くな
れた日を最初の忌日と考えて、三
回目の忌日が「三回忌」となる。
以降は丸六年目が七回忌となる。